

平成 16 年度研究成果報告一覧

1. 厚生労働科研「フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に関する総合的研究」 (H15-医療-020) 平成 16 年度研究報告一覧

Project-1 フッ化物の栄養所要量と健康

田中 栄：フッ化物の骨組織に対する影響、厚生労働科学研究「フッ化物応用総合的研究」平成 16 年度研究報告.

川瀬俊夫、平田幸夫：全身の健康とフッ化物—ラット骨髄由来幹細胞の遺伝子発現におけるフッ化物の影響—厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告.

飯島洋一：フッ化物の健康リスク評価、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告.

西牟田守、板井一好、米久保明得：母乳中のフッ化物分析、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告.

古賀 寛、西牟田守、板井一好：乳児のフッ化物摂取量、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告.

村上多恵子、中垣晴男、西牟田守、古賀 寛：幼児のフッ化物摂取量、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告.

小林清吾、佐久間汐子、八木 稔、眞木吉信、古賀 寛：—フッ化物濃度調整装置デモンストレーション・プログラム—、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告.

佐久間汐子：飲料水中フッ化物濃度が異なる 2 地域の小児における食事からのフッ化物摂取量—陰膳食法による調査—、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告.

Project-2 フッ化物局所応用の予防技術検討・開発

中垣晴男、稲葉大輔、村上多恵子：初期う蝕の診断、予防管理とフッ化物応用：視診で健全な第1大臼歯咬合のレーザー光感光値のDIAGNO-dentの推移、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成16年度研究報告。

稲葉大輔、神原正樹：Quantitative Light-induced Fluorescence(QLF™)法による再石灰化の評価、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成16年度研究報告。

千田 彰、須崎 明：初期う蝕病変に対する結晶学的検討、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成16年度研究報告。

今里 聡：フッ化物徐放性修復材料による充填処置がcaries activityに及ぼす影響、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成16年度研究報告。

福島正義：う蝕ハイリスク者におけるフッ素徐放性修復材料の2次う蝕予防効果に関する予備的臨床研究、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成16年度研究報告。

荒川浩久：フッ化物配合歯磨剤マニュアルの整理、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成16年度研究報告。

眞木吉信：ライフステージおよびカリエスリスクとフッ化物応用、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成16年度研究報告。

古賀 寛、眞木吉信：地域歯科保健としてのフッ化物洗口事業の齲蝕予防効果・医療経済効果分析、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成16年度研究報告。

Project-3 フッ化物応用の保健政策

安藤雄一、平田幸夫、岩瀬達雄、石川清子、臼井和弘、鶴本明久：地方自治体におけるフッ化物利用に関する全国実態調査、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成16年度研究報告。

安藤雄一、鶴本明久、石川清子、岩瀬達雄、臼井和弘、平田幸夫、花田信弘：フッ化物洗口の集団応用に関する新たな事例集作成に向けた取り組み、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成16年度研究報告。

鶴本明久、安藤雄一、筒井昭仁、石川清子、岩瀬達雄、臼井和弘、平田幸夫、花田信弘：

フッ化物洗口普及プログラムのための評価シート作成の試み、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告。

鶴本明久、安藤雄一、石川清子、岩瀬達雄、臼井和弘、平田幸夫、花田信弘：AHP(Analytic Hierarchy Process)モデルによるフッ化物洗口普及政策の導入と住民の合意形成に関する分析、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告。

川口陽子、安藤雄一：う蝕予防関連の新聞記事にみられるフッ化物報道の内容分析、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告。

花田信弘、薄井由枝：最近のフッ化物応用と政治的動向の研究（米国）、厚生労働科学研究「フッ化物応用の総合的研究」平成 16 年度研究報告。

2. 平成 16 年度研究班による刊行物

中垣晴男、眞木吉信、荒川浩久編：フッ化物配合歯磨剤マニュアル、永末書店、2005 年 3 月（白表紙）、京都。

千田 彰、中垣晴男、眞木吉信編：フッ化物徐放性修復材ガイドブック、永末書店、2005 年 3 月、京都。

3. 学術論文等

眞木吉信：フッ化物応用の科学と実際<その 1>基礎編、日本歯科医師会雑誌 56(11)：33-48, 2004.

眞木吉信：フッ化物応用の科学と実際<その 2>基礎編、日本歯科医師会雑誌 56(10)：25-35, 2004.

大神浩一郎、小林健一郎、杉山哲也、眞木吉信、櫻井薫：オーバードンチャーの支台歯に対するフッ化物バーニッシュの効果、老年歯医 19(1), 8~12, 2004.

眞木吉信、福島正義、鈴木丈一郎：歯根面う蝕の診断・治療・予防、71~89、医学情報社、東京、2004

Adachi K, Nakagaki H, Tsuboi S, Maruyama S, Goshima M, Shibata T, Mukai M, Robinson C, Mariano RB. Intra-oral fluoride mouthrinsing in 4- to 5- year old children: effects of fluoride concentration and rinsing time. *Caries Res* 39:48-51,2005.

Thuy TT, Nakagaki H, Ha NTT, Morita I, Tatematsu M, Lan H.A., Hung H.T., Robinson C. Fluoride profiles in premolars after different durations of water fluoridation in Ho Chi Minh City, Vietnam. *Archives of Oral Biology* 48:369-376, 2003.

Nishimuta M, Kodama N, Morikuni E, Yoshioka YH, Takeyama H, Yamada H, Kitajima H, Suzuki K. 2004. Balance of Calcium, Magnesium and Phosphorus in Japanese Young Adults. *J Nurt Sci Vitaminol*: 50(1): 19-25.

Nishimuta M, Kodama N, Morikuni E, Yoshioka YH, Yamada H, Kitajima H, Takeyama H, Suzuki K. 2004. Balance of magnesium positively correlated with that of calcium. *J Am Coll Nutr*: 23: 768S-770S.

Tanaka S. Molecular mechanism of life and death of the osteoclast. *Int J Oral Biol* 2004 in press

Tanaka S. Intracellular signal transduction pathways: good therapeutic targets for joint destruction in rheumatoid arthritis. *Mod Rheumatology* 2005 in press

Koga H, Kameyama A, Matsukubo T, Hirai Y, Takaesu Y. Comparison of short-term in vitro fluoride release and recharge from four different types of pit-and-fissure sealant. *Bull Tokyo Dent Coll* 45(3) : 173-179, 2004.

Tomori, T., Koga, K., Maki, Y. and Takaesu, Y. : Fluoride analysis of foods for infants and estimation of daily fluoride intake, *Bull. Tokyo Dent. Coll.*, 45(1) ; 19-32, 2004.

Sakuma S., Ikeda S., Miyazaki., and Kobayashi S. Fluoride mouth rinsing proficiency of Japanese preschool-aged children. *International Dental Journal*. Vol.54, 126-130, 2004.

Toda S, Song W, Usui S, Kawamura K, Kimoto K, Hirata Y, Arakawa H : Study on Fluoride Content of Food -Fish-. Bulletin of Kanagawa Dental College, 32(1): 21-28, 2004.

Song W, Toda S, Arakawa H : Total Amount of Fluoride in Food and Change in Fluoride Concentration as a Result of Cooking. The International Journal of Oral Health, 1: 7-10, 2004.

Y.Iijima, : Acid Resistance of Enamel Subsurface Lesions Remineralized by a Sugar-Free chewing Gum Containing Casein Phosphopeptide-amorphous Calcium Phosphate (CPP-ACP), Caries Res, Vol. 38.. No.6, 551-556. 2004.

須崎 明、千田 彰 : DIAGNOdent™ によるう蝕診断、2004.、歯科用レーザー・21世紀の展望 パート2、26-29

厚生労働科学研究費補助金
(医療技術評価総合研究事業)

フッ化物応用による歯科疾患の予防技術評価に
関する総合的研究
(H15-医療-020)

平成 16 年度総括研究報告書

平成 17 年 4 月

発行責任者：厚生労働科学研究
「フッ化物応用の総合的研究」班
主任研究者 眞木吉信

印刷：千葉孔版(株)

@本書内容の無断掲載を禁じます。